



# 歴史を辿る。

設楽原を舞台として  
繰り広げられた長篠・設楽原の戦い。  
織田・徳川連合軍と武田軍、  
新旧の戦いが歴史を大きく動かすことになりました。

# 戦

## 19 長篠城跡



新城ICより  
約2.6km

永正5年(1508)に菅沼元成が築いた長篠城は、豊川と宇連川の合流点に位置し、北方に人口の堀と土塁を築いた堅固な城でした。戦国の世の常として、今川、武田、徳川にと帰属を変え、天正3年には21歳の奥平貞昌が城主となりました。この城を長篠・設楽原の戦いで武田信玄の子・勝頼が父の上洛の夢を果たそうと15,000人の大軍により包囲ましたが、貞昌は500人の兵で籠城に耐え抜きました。



19

## 18 設楽原決戦場



新城ICより  
約2km

天正3年(1575)、長篠・設楽原の戦いの舞台となった場所。武田軍と織田・徳川連合軍の総勢5万人を超える兵士達が、当時東西の勢力の要となっていた長篠城をめぐり様々な戦術を駆使して戦いました。無敵を誇っていた武田軍の騎馬隊に対する織田・徳川連合軍は、「火縄銃」という新たな武器を「鉄砲隊」と「馬防柵」という戦術で組織的に利用し、圧倒的な強さで短期間に内に決戦を征しました。その馬防柵が決戦場跡に再現されています。



18

## 30 設楽原歴史資料館



新城ICより  
約1.9km

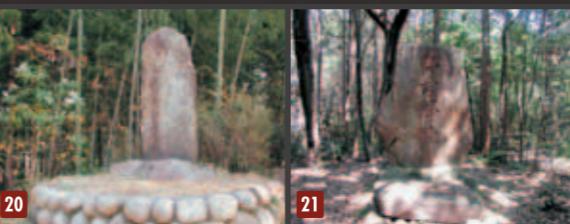
長篠・設楽原の戦いの様子は決戦場を臨む丘の上にある資料館で詳しく知ることができます。多数の火縄銃が展示され、鉄砲の伝来からその後の火縄銃の歴史を展示紹介しています。

TEL.0536-22-0673

設楽原を舞台として  
繰り広げられた長篠・設楽原の戦い。  
織田・徳川連合軍と武田軍、  
新旧の戦いが歴史を大きく動かすことになりました。



30



## 20 新城城跡



新城ICより  
約4.5km

長篠・設楽原の戦いの結果、織田・徳川連合軍の大勝利に帰したので、奥平貞昌は、信長の信の一宇をもって信昌と改め、家康の長女・亀姫をめどり、天正4年(1576)に新城城を築城しました。

## 21 野田城跡



新城ICより  
約7.8km

元亀4年の戦いの際、信玄が鉄砲で撃たれたという話が伝わっています。城内にいた笛の名人、村松芳休の奏でる笛の音に、夜、信玄が聞き惚れて堀端に出たところを鉄砲の名人、鳥井半四郎に撃たれたということです。これが原因かどうかはわかりませんが、信玄はこのころから病気になり、帰路の途中、信州駒場で死んだとされています。



21



## 22 鳥居強右衛門



新城ICより  
約23.9km

鈴木金七郎と共に長篠・設楽原の戦いで武田の包囲網を危険を顧みず突破し、織田・徳川連合軍の援軍を岡崎の徳川家康に求める使者として奥平貞昌から命じられた家臣。その活躍は三河武士の模範として今でも語り継がれています。



23



新城ICより  
約23.9km

甘泉寺境内にあるコウヤマキは、樹齢600年以上の大木で樹高28m、幹の周りは6.5mになります。国の天然記念物に指定されてるほか、「新日本名木百選」にも選ばれています。



24



統日本  
名100  
城

新城ICより  
約22.2km

## 25 川尻城跡

新城ICより  
約23.7km

元亀3年(1572年)に奥平氏の監視のため武田信玄の重臣馬場美濃守信春が甲州流の繩張りで、武田軍の最前線基地として築城。2年後奥平・徳川連合軍の前に自焼陥落しましたが、名城の面影を今に残しています。



25

## 26 亀山城跡



新城ICより  
約21.4km

応永31年(1424年)に奥平貞俊により築城されました。周辺には、武田方によって築城された古宮城跡や塞之神城跡があります。毎年5月中旬には「古城まつり」が開催されます。



26

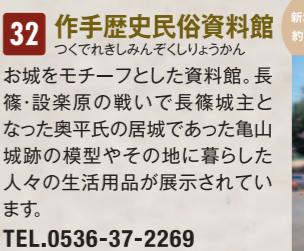
## 31 長篠城址史跡保存館



新城ICより  
約2.6km

日本百名城に数えられる長篠城の城跡にあり、長篠・設楽原の戦いに関する遺品や文献などを保存し、常時約200点の展示があります。

TEL.0536-32-0162



## 32 作手歴史民俗資料館



新城ICより  
約23km

お城をモチーフとした資料館。長篠・設楽原の戦いで長篠城主となつた奥平氏の居城であった亀山城跡の模型やその地に暮らした人々の生活用品が展示されています。

TEL.0536-37-2269